

令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	32	40	27	30	13.6	25.2	11.6
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	32	42.7	41.4	37.1	32.9	36.3	22.1	4.7	18.3	15.5	14.2
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2 年	学校	33	50.4	43.7	34.1	24.5	35.3	14.8	4.1	22.0	21.9	18.3
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	40.6	57.2	8.2	3.2	11.2	10.4	8.6
	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.2	57.1	8.3	3.5	12.0	11.3	8.9
1 年	学校	39	37.1	36.6	32.1	43.7	43.2	24.2	14.3	23.1	3.5	9.1
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	9.1	1.9	4.3
	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	10.3	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
3 年	学校	31	77.2	78.0	73.3	68.2
10月17日	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			39								
2 年 男 子	学校	30.36	25.07	39.93	50.50	78.43		7.98	205.14	20.00	39.50
	大阪市	28.62	26.21	42.04	51.65	79.05		8.05	194.78	19.88	40.79
	全 国	29.02	25.82	44.16	51.22	78.07		8.01	197.02	20.40	41.32
2 年 女 子	学校	24.56	21.91	42.70	44.68	49.30		9.02	170.65	13.05	48.63
	大阪市	23.11	22.12	44.78	46.25	52.11		9.03	165.29	12.10	46.99
	全 国	23.15	21.91	46.27	45.65	50.70		8.95	166.34	12.43	47.22

令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果において

<国語>

成果: 問題番号1-1、1-2、1-3 問題番号2-1、2-2、2-3 問題番号3-1という各章の最初の問題において、正答率は全国平均を下回っているものの、無回答率が0.0%であり、テストに対する意欲があることがわかる。また、通常の授業で、読解力向上のためのワークやNIEを取り入れていることもあり、文章を読むことが苦手な生徒が少なくなっている。

課題: 一方で、問題番号1-4、問題番号4-3など、自分の意見を書く問題については、無回答率が非常に高く(34.4%、50.0%)、自分の言葉で表すことを苦手とする生徒が多いことがわかる。

<数学>

成果: 自然数の意味を理解しているかどうかを問う問題(正答率全国対比-8.6%)、反比例の意味を理解しているかどうかを問う問題(正答率全国対比+7.2%)など、基本的事項を問う問題は全国と比較して正答率は高かった。

課題: 基本的な問題でも計算問題(正答率全国対比-39.9%)や累積度数の意味を問う問題(正答率全国対比-30.4%)など、分野によっては全国と比較して低い水準であった。また、記述式の問題については正答率は10%台と多くの生徒が正しく答えることができていなかった。

<英語>

成果: 大阪府平均や全国平均に比べて無回答率が低く、問1から7(1)まで全員が回答することができていた。

課題: 「書くこと」に関する平均は大阪府平均や全国平均と比べて17~18ポイント低く、課題があることが分かった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)において

<成果>

平均点は大阪府と比較して、7割程度であったが、昨年度の中学生2年生(同一母集団)の時の結果と比べると、1割程度高い結果となった。

<課題>

全ての教科において、無回答率が府、市に比べて高い結果となった。

○大阪市英語力調査(GTEC)において

<成果・課題>

「聞くこと」は大阪市と比較して、77.2と大阪市の平均に比べて低いものの、4技能の中で最も高い数値であった。普段から教師から英語を使って生徒とコミュニケーションを図ったり、単元ごとにリスニングテストを実施していたことが結果につながった。

「話すこと」は大阪市と比較して、68.2と大阪市の平均に比べて低く、課題が残る結果となつた。特に、何も発言することなく回答を終えた生徒が多いことから、間違ひを恐れずに自ら進んで英語で発言する能力を身につけさせる必要がある。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において

<成果・課題>

(男子) 全国平均と比較して、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「50m走」「ハンドボール投げ」において全国平均を下回った。「握力」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」においては全国平均を上回る結果となつた。

(女子) 「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」において全国平均を下り、「ハンドボール投げ」「立ち幅跳び」「握力」においては全国平均を上回る結果となつた。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

<成果>

平均点は大阪府と比較して、8割程度であったが、教科によっては、平均点の差が僅かなところもある。

<課題>

全ての教科において、無回答率が府、市に比べて高い結果となつた。

【今後に向けて】

<国語>

自分の意見を書く問題の他に正答率や無回答率が多かつたのは、漢字、歴史的仮名遣い、古語の意味の問題であった。基礎的な知識を問われる問題は、個人の努力で身につけることができる内容である。自主学習の習慣が身につくように、小テストやNIEに引き続き取り組みたい。

<数学>

基本的事項の習得が不可欠であり、反復演習で基本的事項の定着、小テストを実施することで生徒の理解度の確認を行う。特に数学は積み重ねの教科なので、必要に応じて前学年の復習を取り入れていく。また、基本的事項が定着している生徒に対しては、応用問題や記述問題に取り組ませ、学力に応じて個々の課題に対応していく。

<英語>

授業において、復習→めあて→本時の学習→振り返りの流れを固定し、生徒が安心して取り組むことができるよう工夫し、C-NETを活用した積極的にコミュニケーションを行う授業を実践していく。

<GTECの結果より>

今後は4技能全体の平均点の向上を目指して、基礎・基本を大切にしながら指導を行う。特に、「話すこと」に関しては、場面や状況を設定し、生徒が適切に英語で表現できるような活動を設けていく。

<全国体力・運動能力、運動習慣等調査より>

男子は「長座体前屈」が全国平均と比べ約4cmを下回る結果となつたので、今後の授業において柔軟性を意識した運動を継続して取り入れていきたい。女子も「長座体前屈」では全国と比べて4cmも下回る結果となつたので、今後は柔軟性を取り入れた運動を取り入れていきたい。また、「20mシャトルラン」においても大阪市の平均と比べると3回少ない結果となつたので、今後は持久力を上げるトレーニングやランニングを継続的に実施していく。

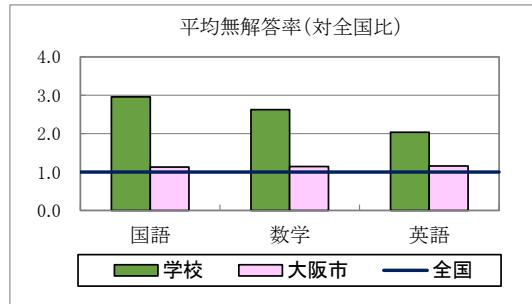
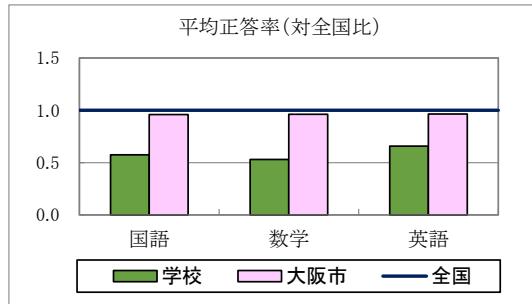
**令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	40	27	30
大阪市	67	49	44
全国	69.8	51.0	45.6

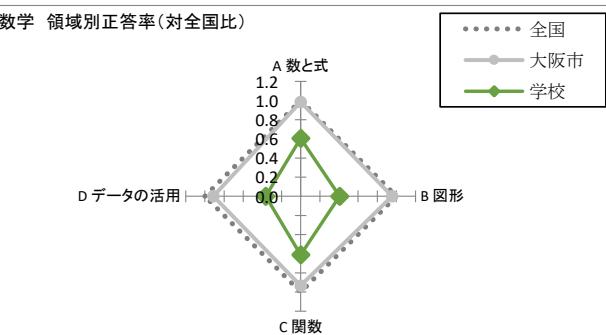
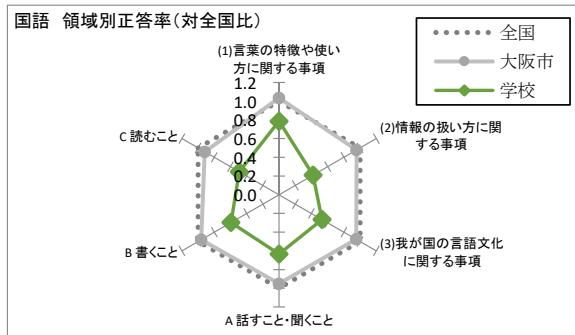
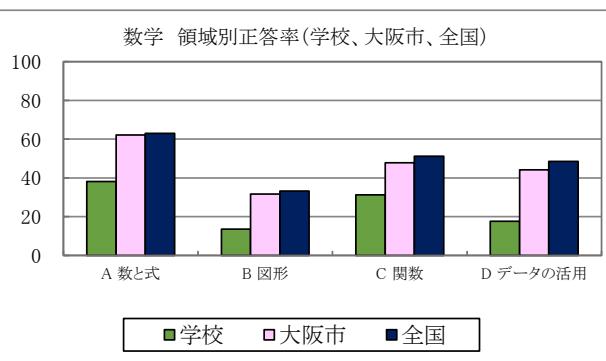
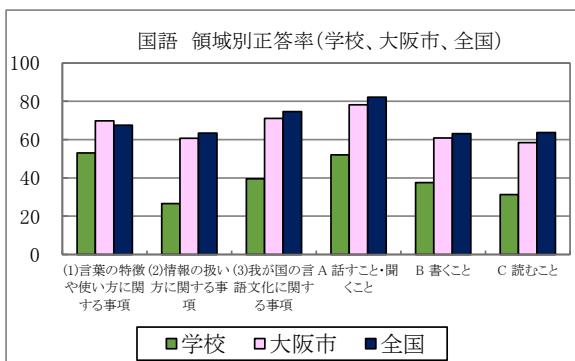
平均無解答率(%)		
国語	数学	英語
13.6	25.2	11.6
5.2	11.0	6.6
4.6	9.6	5.7



【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	53.1	69.8	67.5
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	26.6	60.7	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	3	39.6	71.1	74.7
A 話すこと・聞くこと	3	52.1	78.2	82.2
B 書くこと	2	37.5	60.8	63.2
C 読むこと	4	31.3	58.5	63.7

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	38.1	62.1	63.0
B 図形	3	13.5	31.7	33.2
C 関数	4	31.3	47.8	51.2
D データの活用	3	17.7	44.2	48.5

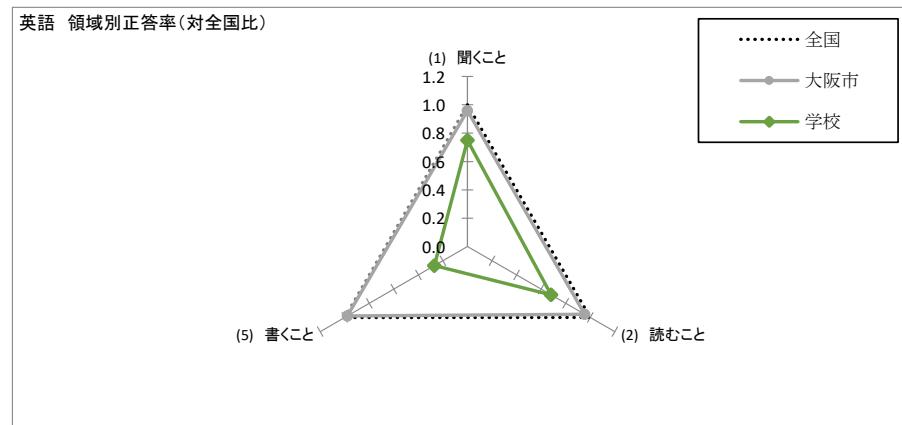
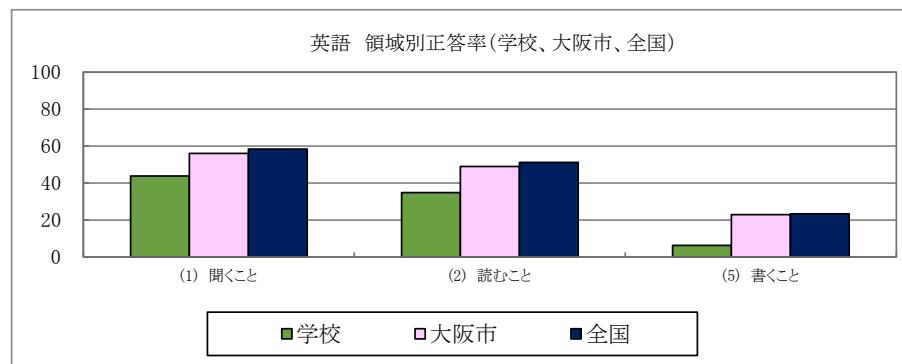


令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【英 語】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1) 聞くこと	6	43.8	56.0	58.4
(2) 読むこと	6	34.9	48.9	51.2
(3) 話すこと[やり取り]	0			
(4) 話すこと[発表]	0			
(5) 書くこと	5	6.3	22.9	23.4



**令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

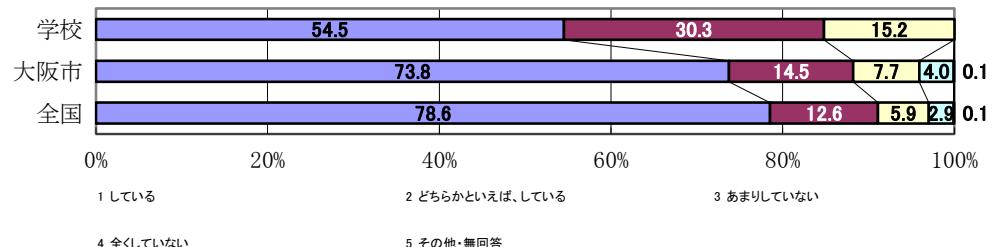
生徒質問紙より

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

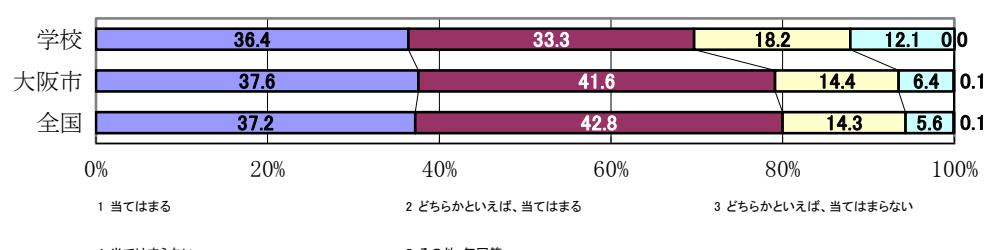
1

朝食を毎日食べている



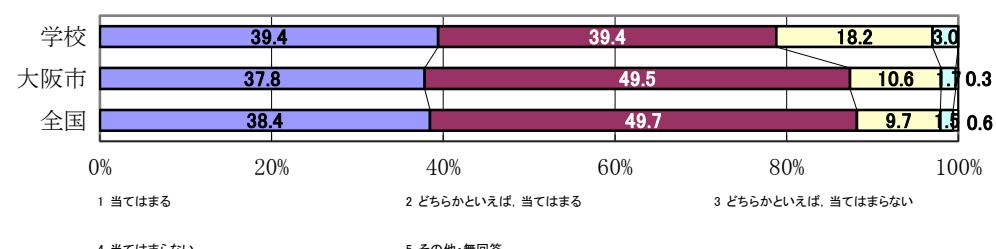
4

自分には、よいところがあると思う



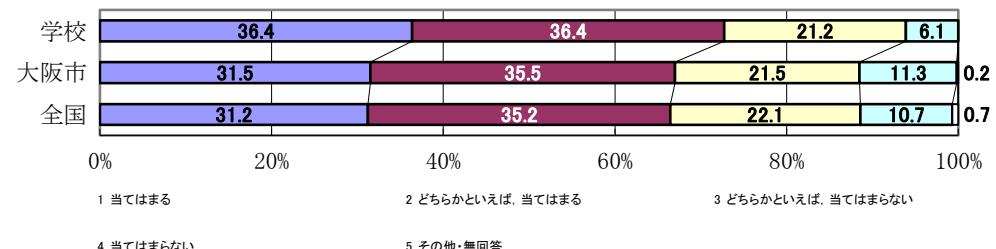
8

人が困っているときは、進んで助けている



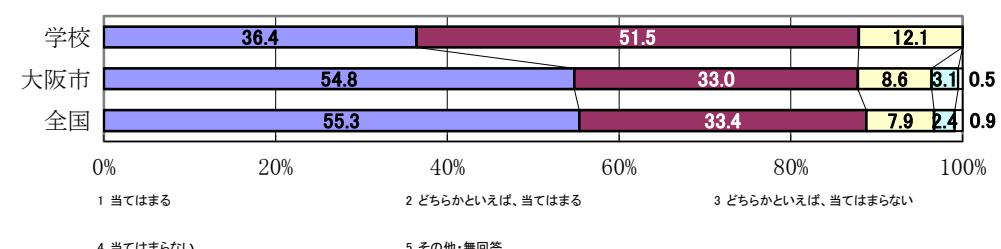
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



14

友達関係に満足している



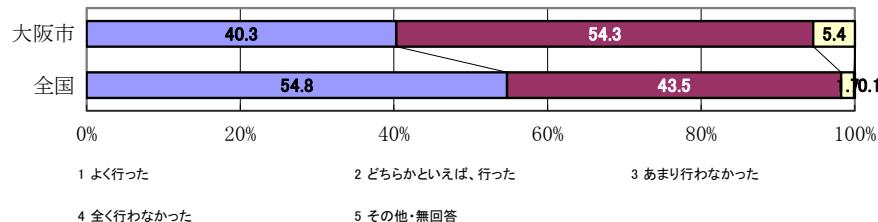
令和5年度 大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

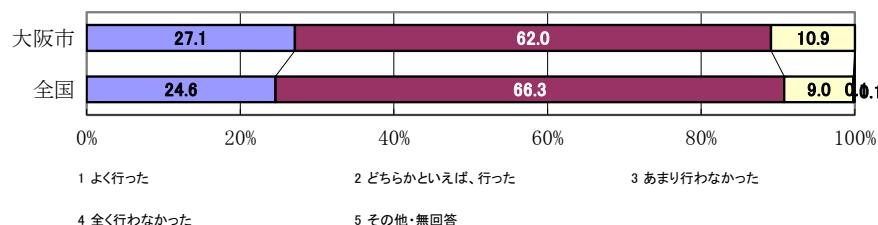
質問番号
質問事項
13
<p>調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った</p>

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



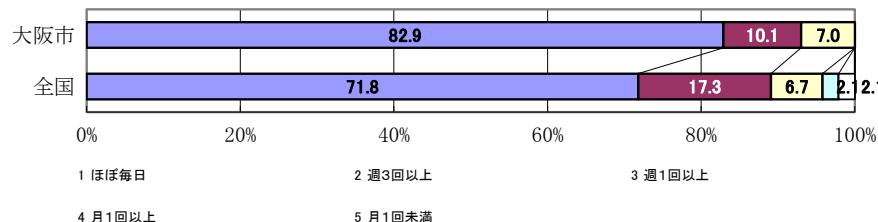
質問番号
質問事項
31
<p>調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している</p>

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



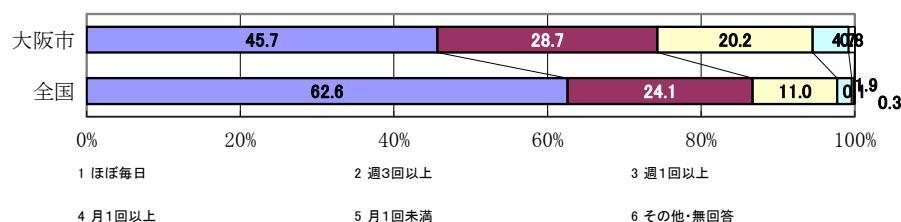
質問番号
質問事項
60
<p>前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか</p>

学校 「ほぼ毎日」を選択



質問番号
質問事項
63
<p>調査対象である第3学年の生徒に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか</p>

学校 「ほぼ毎日」を選択



質問番号
質問事項
77
<p>令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した</p>

学校 「よく行った」を選択

